

「もりおかまちなか カフェ」のご紹介
カフェ主宰 熊谷 智津子

岩手県立中央病院の新渡戸稲造記念がん哲学外来メディカル・カフェから生まれた、癌患者仲間3人で始めたカフェです。病院のカフェは、インフルエンザの流行期は閉鎖されるので、「その間、月1回でも会えたらいいネ」と癌患者だけで立ち上げた、出来てまだ新しいカフェです。

カフェは、両親が亡くなり空き家になっていた実家を利用しています。盛岡の閑静な住宅街ながら、大学が近く飲食店に事欠かず、自然に恵まれた憩いの池も1マイル内にある環境です。

カフェの家は、年中花が咲き、植木に囲まれた庭とお茶室、海外の飾り物が沢山の洋室や床暖のリビングを季節で使い分けて活動しています。ランチをしたり、アロマの先生が来て癒して下さったり、今後は琴の音色も聞けるかもしれません。

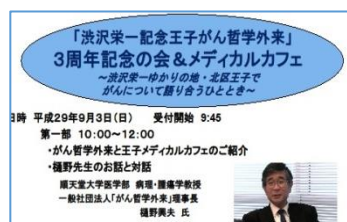
自分が癌である事も、治療過程や副作用の辛さも、将来の不安も、健康な人には分かって貰えないもどかしさも、カフェでは安心して吐き出せます。参加者皆さんが誠意のある対応で聴いてくれます。お茶してお喋りして笑って、元気になってまた明日生きる手応えを貰って帰ります。ゆったりで楽しいカフェです。

渋沢栄一記念 “王子がん哲学外来” 3周年
カフェスタッフ 根木 真代

私たちは毎月1回のペースで、東京都北区の王子駅周辺の会場を利用してメディカルカフェを開催しています。参加者はいつも10名ほどで、地域の患者さんを中心に多様な立場の方がおいでになります。ひとつのテーブルを囲んでまったりとした雰囲気対話がすすみ、お茶とお菓子もおいしくいただいています。

9月3日には3周年記念の会を開催することができました。午前中は樋野興夫先生がおいでくださることになっていたのですが、貴重なこの機会を先生と参加者全員との対話の時間にあてることにしました。会場からは積極的に質問がでたのであつという間に時間が過ぎてしまい、予想以上に盛り上がりました。樋野先生もとてもいい雰囲気でお話してくださいました。

午後にはいつものメディカルカフェを開催しましたが、この日はテーブルが3つになりました。王子のメディカルカフェの良いところは「たくさん話せる」という点なので、3周年記念の会もそういうコンセプトで計画しましたが、願いどおりになりスタッフ全員がほっとして喜んでいました。



がん哲学外来メディカル・ヴィレッジ in 万座日進館
～Medical Village 街道 月間設立を目指して～

2017.09.09～10



「がん哲学外来」MEDICAL VILLAGE
メディカル・ヴィレッジ万座 in 越後村
がん哲学外来。この10年が全国的に広まり、今や130ヶ所をこえる規模が実現している。特に、癌患者の癒やしと生活の質を向上させること、そして地域に寄り添う多くの関係者の協力の賜で実現しています。がん哲学外来カフェin万座。は樋野先生が一人の力を結集するは一つの村の発展。をのめらるることに何れも地域貢献、企業支援の発展のため「がん哲学外来メディカル・ヴィレッジ万座」の設立宣言を 昨年9月12日に樋野先生の記者会見の場で発表いたしました。全日本癌患者連帯の発展でがん哲学外来in万座が十分に生かされた。メディカル・ヴィレッジを目前し、がんのみならず今後の高齢化社会を見据えた「がん哲学外来」を、がん哲学外来in万座、を本誌の要項で掲載させていただきます。多くの方のご意見を賜りたくご質問をお待ちしています。

平成29年9月9日～10日 第6回シンポジウム がん哲学外来カフェ

講演会
 場所：日進館101号
 日時：9月9日午後8時30分～午後9時00分
 講師：「がん哲学外来」一人ひとりの活動と交流会～
 講師：樋野興夫(順天堂大学)

シンポジウム
 場所：日進館 シオンの泉
 時間：10日 午前10:00～午後12:00
 テーマ：「がん哲学外来in万座」の展開
 座長：黒岩 将
 パネラー：「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将
 「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将
 「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将
 「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将
 「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将
 「福井県癌対策推進部 部長」黒岩 将

基調講演 『Medical Village 街道～がん哲学 月間 設立を目指して～』 樋野 興夫
特別講演 『がん哲学in万座』 在久総合病院地域ケア科科長 根木 真代

司会 『がん哲学in万座』 福井県癌対策推進部 部長 黒岩 将
 『がん哲学in万座』 福井県癌対策推進部 部長 黒岩 将

がん哲学外来カフェin万座
 場所：日進館シオンの泉
 時間：10日 午後12:00～午後2:00

0279-97-3131